

北陸地方整備局における業務環境改善の 受発注者コミュニケーションの取り組み

国土交通省 北陸地方整備局 企画部 技術管理課 基準第二係長 たなか じゅんいち 田中 純壹

1. はじめに

建設業界の若手技術者の離職者の増加，入職者の減少は，将来の公共事業の担い手不足に通じる緊急の課題となっています。

また，平成26年6月には，公共工事の品質確保に不可欠な担い手の中長期的な育成・確保を目的とした「改正品確法」が公布・施行され，発注者は法の趣旨を踏まえ，様々な取り組みを進めています。

工事に関しては，「完全週休2日制工事」の試行実施によるワーク・ライフ・バランスの推進や，女性技術者も工事現場で活躍できる場を創出するために，トイレや更衣室等を女性技術者にも配慮した現場環境の改善に努めているところです。

一方，公共事業の上流に位置するコンサルタント業界においても，長時間労働や休日出勤などの問題が顕在化してきており，同じく就業環境の整備は重要となっています。

そのため，北陸地方整備局では，土木設計業務等の技術者の就業環境改善のため，従来より推進しているワンデーレスポンスに加え，受発注者間相互における一週間の仕事の進め方を定めた「ウィークリー・スタンス」の取り組みを平成26年6月から導入を行っています。

また，完全週休2日の確保，残業縮減，有給休暇の取得等の業務環境の改善を推進することにより，設計業務等の成果品の品質確保や，担い手の育成・確保を目的とした「ワーク・ライフ・バランス・モデル業務委託」の試行を平成28年度から導入しました。

本稿では，北陸地方整備局における業務就業環境改善への取り組みである，「ウィークリー・スタンス」及び「ワーク・ライフ・バランス・モデル業務委託」について紹介します。

2. 「ウィークリー・スタンス」の概要

「ウィークリー・スタンス」とは，業務や工事を円滑かつ効率的に進めるため，受発注者間における仕事の進め方として，ワンデーレスポンスを推進していますが，これに加えて，一週間における受発注者間相互のルールや約束事，スタンスを目標として定め，計画的に業務を履行することにより業務環境等を改善し，より一層，魅力ある仕事，現場の創造に努めることを目的として，全国に先駆けて，平成26年6月から導入を開始しました。

【取組内容（必須項目）】

- マンディ・ノーピリオド

(月曜日は依頼の期限日としない)

● ウェンズデイ・ホーム

(水曜日は定時の帰宅に心がける)

● フライディ・ノーリクエスト

(金曜日に依頼しない)

具体的な取組内容は上記のとおりですが、その他の曜日についても、受発注者間において確認のうえ追加項目を決定しても良いこととしています。

導入当初は、天候等に左右されない、内業を主とする業務を対象としていましたが、平成27年6月からは一部修正し、実施可能な工事においても、受注者の意思を確認のうえ、適用を可能としました。また水曜日のウェンズデイ・ホームについては、特別な業務を除き、受注者の意思を確認のうえ、全ての業務を対象とすることとしました。

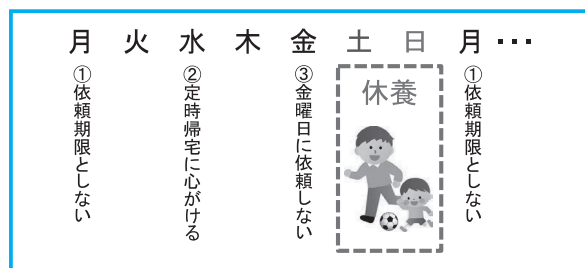


図-1 ウィークリー・スタンスの取組内容

ウィークリー・スタンスの進め方は、

(1) 受注者の意思確認

① 契約後、主任調査員（主任監督員）等から管理技術者（現場代理人）等にモデル業務（工事）の主旨及び取組内容を説明すると共に、取り組む意思を確認する。

② 同意を得た場合は、取組内容を確認する。

(2) 具体的な進め方

① 初回打合せにおいて、取組内容を定める。

② 定めた内容は、管理技術者（現場代理人）等及び主任調査員（主任監督員）等が打合せメモ等で確認し、受発注者間で共有する。

(3) 取組方法

① 取組内容の確認及び状況報告等は、業務スケジュール管理表（工程表及びASP）を活用する。

② 中間打合せ等を利用し、受発注者間で取り組みのフォローアップ等を行う。

③ 管理技術者（現場代理人）等は、成果品納入時（完成時）の打合せにおいて、業務全般の取組結果（効果、改善点等）について報告する。

としています。

ただし、業務を遂行していく中では、自然災害など突発的な事態の対応が必要となることも否定できません。また、外業を伴う場合、天候にも左右されます。

そのため、ウィークリー・スタンスは、義務というより受発注者間共通の目標（改善に向けた意識改革）と考えています。

以上のように、ウィークリー・スタンスの実施方法を定め、導入・普及に努めていますが、より効果的な取り組みとするためには、実際に現場で運用する受発注者の声を取り入れながら、適切に対応していくことが必要と考えます。

そこで、（一社）建設コンサルタンツ協会北陸支部の協力の下、協会加盟企業へウィークリー・スタンスに関するアンケートを実施し、取組状況の実態を確認しました。

アンケートは、平成27年度に受注・完了した「土木設計業務^{※注}」を対象として6つの質問を設け、北陸地方整備局発注業務の受注実績のある21社より回答がありました。

結果をとりまとめると、ウィークリー・スタンスの取り組みは効果があったという意見が多く、さらなる推進が望まれていることがわかりました。

※注）北陸地方整備局全体では、平成27年度25件実施

アンケート結果を検証すると、取り組み全体に対しては肯定的な意見が多く寄せられました。

一方、取り組みが進んでいないとする意見もありました。これは、作業工程の遅れによるものが多いでしたが、急な作業指示など、発注者が要因となっているものもありました。

平成28年度は、計画も含めて約80件の業務委託においてウィークリー・スタンスを実施予定です。

今後、この取り組みが全ての業務において一般

問 1) 平成 27 年度に受注・完了した業務のうち、ウィークリー・スタンスに取り組んだ業務件数

19 件

問 2) ウィークリー・スタンスに取り組んだ業務は、どの項目について取り組みが守られましたか。
該当する項目について業務件数を記入して下さい。※①～③は複数回答可

①マンディ・ノーピリオド（月曜日は依頼の期限日としない）	1 件
②ウェンズディ・ホーム（水曜日は定時の帰宅に心がける）	3 件
③フライディ・ノーリクエスト（金曜日に依頼しない）	1 件
④「①～③」の全て	12 件

問 3) 取り組みに反する要求はありましたか。あった場合、それはどの項目ですか。
該当する項目について業務件数を記入して下さい。※①～③は複数回答可

①マンディ・ノーピリオド（月曜日は依頼の期限日としない）	0 件
②ウェンズディ・ホーム（水曜日は定時の帰宅に心がける）	1 件
③フライディ・ノーリクエスト（金曜日に依頼しない）	0 件
④「①～③」の全て	8 件

問 4) 取り組みに反する要求は、どのようなものが原因と考えられますか。
該当する項目について業務件数を記入して下さい。※複数回答可

①地元・関係機関との協議のためやむを得ず	1 件
②上位機関との協議のためやむを得ず	1 件
③全体的な作業工程の遅れのためやむを得ず	7 件
④特別に急ぎの業務	2 件
⑤その他	1 件

[業務内容の変更に伴い業務量が増加したため、水曜日の残業が必要となった]

問 5) ウィークリー・スタンスの取り組みにより、発注者の意識変化、改善効果を感じられましたか。

①改善効果を感じた	9 件
②改善効果は感じなかった	9 件

問 6) その他ウィークリー・スタンスに関する意見（自由回答）

○ウィークリー・スタンスを意識して進めることにより、スケジュール管理が徹底し、業務の品質向上に寄与している。 ○受注者としても業務管理がし易くなり、業務の品質向上に取り組むやすい。 ○平成26年度河川系詳細設計業務がウィークリー・スタンスの試行業務であって、仕事に余裕が持てたと感じた。 ○今年度（平成28年）の受注業務で現在進行中であるが、良いシステムであると思う。 ○本取り組みは、発注者・受注者の双方にとって良い取り組みであり、また建設業界における更なる就業環境改善、魅力向上に繋がるため、引き続き積極導入や改善等よろしく願いいたします。 ○発注者はウィークリー・スタンスを意識していることが感じられるが、実際にはそれを承知で資料作成等を依頼するケースが多い。特に、上位機関が関係する案件は、提出までの時間に余裕がないことが多い。
--

図ー2 ウィークリー・スタンス 受注者アンケート結果

化していくためにも、引き続き、受発注者のコミュニケーションを十分に図りながら、より良いものとなるよう努力していきます。

3. 「ワーク・ライフ・バランス・モデル業務委託」の概要

北陸地方整備局では、業務委託（設計業務、調査・計画業務）における成果品の品質確保、担い手の中長期的な育成・確保を目的に、適切な工期設定と業務環境の改善のための試行業務として、「ワーク・ライフ・バランス・モデル業務委託」を、平成28年度より導入しました。

具体的な取組内容としては、

【適切な履行期間の設定】

工期には土日・祝日を休日として見込んでおり、土日・祝日は本業務の完全不稼働日とする。また、受注者の年次有給休暇も工期に反映している。

なお、事故や災害など業務遂行上緊急の事態が発生した場合には、受注者は調査職員と対応について協議するものとする。

【ワンデーレスポンスの履行】

業務履行中に受注者より設計条件等に関する質問・協議があった場合には、その日のうちに回答することを原則とし、回答に検討期間を要する場

合には、受注者に優先順位や重要度を確認したうえで、適切な回答期限を設定し、確実に回答を行う。

【ウィークリー・スタンス（拡大）の試行】

ウィークリー・スタンス（拡大）の対象とする。
なお、ウィークリー・スタンス（拡大）とは以下をいう。

- ① マンディ・ノーピリオド
(月曜日は依頼の期限日としない)
- ② ウェンズデイ&フライディ・ホーム
(受発注者間で水曜日さらには金曜日もノー残業デーとし、そのために必要な対応（ノー残業デーには業務時間外の連絡を行わない等）に心がける)
- ③ フライディ・ノーリクエスト
(金曜日に依頼しない)

※その他の曜日についても、受発注者間において確認のうえ決定してもよい。

【マンスリーチェック(業務スケジュール管理表)】

契約後毎月、業務スケジュール管理表を用いて、受発注者相互の進捗状況や予定を照合する。

なお、諸条件等の変更があった場合は、受発注者協議のうえ「業務スケジュール管理表」を修正し、必要に応じて工期変更する。

【インセンティブ】

業務成績評定（主任調査員）の工程管理能力（実施体制、工程管理）を評価する。

【業務完了時調査】

業務完了時に、受発注者相互のヒアリング調査等により、取組状況の課題等の分析を行う。

以上の項目について、効果的に実施できる業務として、「設計業務」及び「調査・計画業務」で直接的な外業を含まず、かつ早期発注、年度末工期とならない業務を選定し、初年度である今年度は、3件を対象として実施中です。

今後、対象業務の完了後に検証を行い、次年度の取り組みに反映していきたいと考えています。

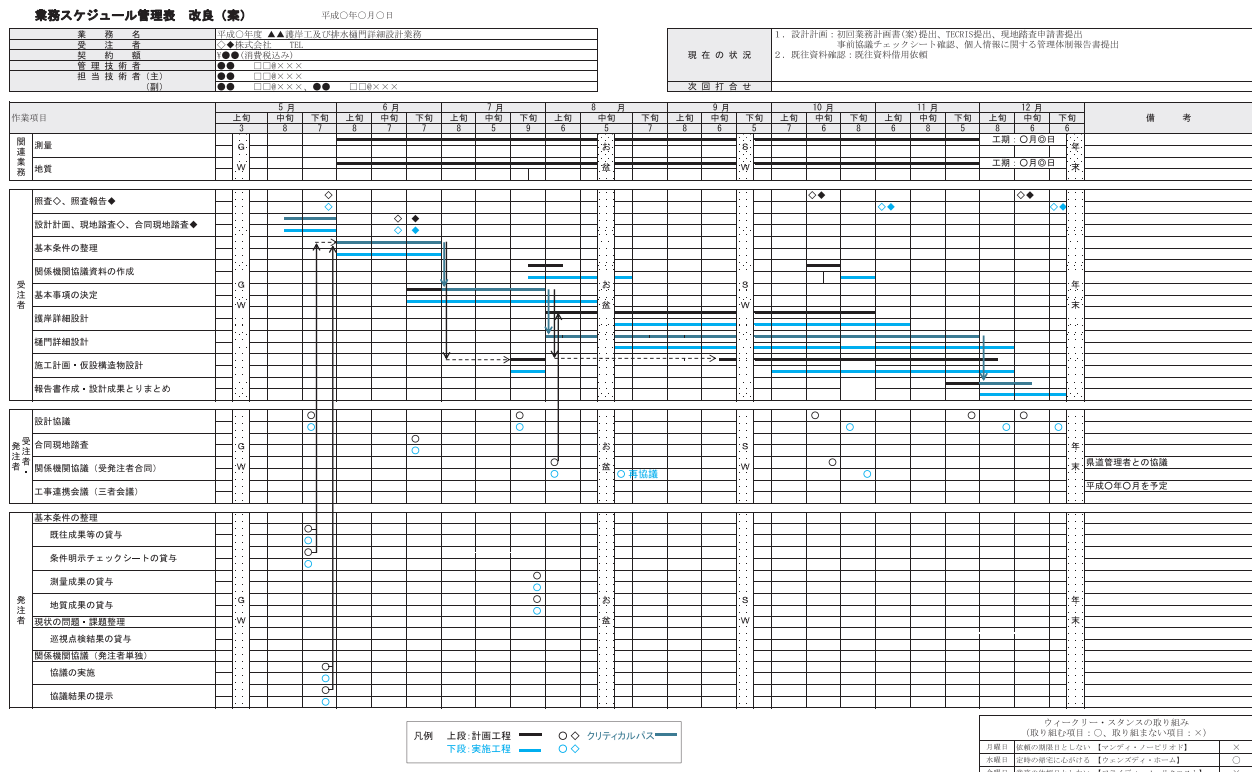


図-3 業務スケジュール管理表(北陸地整改良版)

北陸・管理技術者懇談会の開催(案)

平成27年度～

コンサルタント業務の現場を理解・把握している管理技術者の声を聞くことにより、コンサルタント業務の現場について発注者が理解し、更なる円滑な業務執行に努めるため、昨年度初めて「北陸・管理技術者懇談会」を開催し、受発注者とも有意義な意見交換ができたことから、今年度も継続開催する。

■内 容：①入札契約に関すること
②積算・業務履行・完成検査に関すること
③担い手確保に関すること
④その他

■昨年度の主な意見 (H27. 10. 20開催、管理技術者11名出席)
○ヒアリングは技術提案の内容を伝える場として、有った方がよい。
○ヒアリングの若手同席は良い制度。複数人を事前登録し、本番には都合の良い1名を選んで同席できるような制度改正を望む。⇒ **H27年度改正済み**
○技術提案を担保するために価格の競争に陥りやすいので、プロポーザルの比率を高めてほしい。
○管理技術者が技術提案などで頑張っている姿が、若手から見てどう映っているのか気になる。苦勞したくないと思う若者もいる。
○ウィークリー・スタンスは徐々に浸透しており効果が出てきている。



昨年度の様子

図ー4 「北陸・管理技術者懇談会」の開催概要(案)

北陸・女性コンサルタント技術者懇談会の開催(案)

平成28年度初開催

今後の建設コンサルタント分野の担い手確保を鑑みた場合、若手技術者の確保と並んでますます期待されるのが「女性技術者」の存在である。
しかし、建設コンサルタント分野における「女性技術者」が活躍できる環境が、必ずしも十分に整備されているとは言えない現状である。
そのため、今後のコンサルタント業務における更なる品質確保や生産性の向上とあわせ、職場環境の改善のための声を聞くため、「北陸・管理技術者懇談会」と並行して「北陸・女性コンサルタント技術者懇談会」を開催する。

■出席者：○建設コンサルタンツ協会推薦の女性技術者
○整備局 女性職員

■内 容：①土木分野に進んだきっかけ、これまでの業務経験
②職場環境、業務環境について
③今後のコンサルタント業務について

■備 考：女性技術者は、同日開催の「管理技術者懇談会」にオブザーバー参加し、今後のスキルアップのために、管理技術者としての理解を深めることも期待。



【参考】
工事現場におけるアメニティ検討会2の様子
(平成28年10月13日開催)

図ー5 「北陸・女性コンサルタント技術者懇談会」の開催概要(案)

4. おわりに

北陸地方整備局では、これまでも積極的に業務委託における受注者の環境改善に取り組んできましたが、現在も本稿で紹介したような各種取り組みを先導的に実施しています。

その他にも、コンサルタント業務の現場を理解・把握している管理技術者の声を聞くことにより、コンサルタント業務の現場について発注者が理解し、更なる円滑な業務執行に努めることを目的に、昨年度初めて「北陸・管理技術者懇談会」を開催し、受発注者とも有意義な意見交換ができ

たことから、今年度も継続開催することとしています。

また、建設コンサルタント分野の担い手としてますます期待されている「女性技術者」から、受発注者コミュニケーションに関することや、職場環境の実態、今後のコンサルタント業務についてなど、建設的・前向きに意見を交換するために、今年度初めて「北陸・女性コンサルタント技術者懇談会」を開催する予定です。

北陸地方整備局ではこれからも、これらの取り組みを推進していくことにより、得られた成果や課題の検証を確実にを行い、今後の業務委託における就業環境の改善をさらに推進していくこととしています。